

## 4. 能登半島地震の周辺活断層への影響

産業技術総合研究所

計算条件

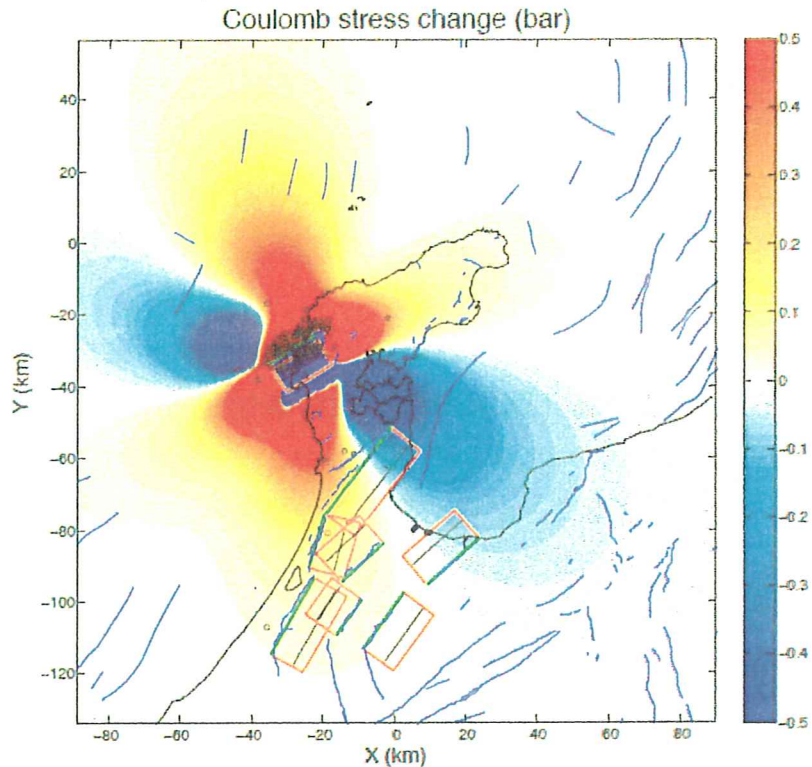
【震源断層】

震央 北緯37.22° 東経136.685°  
 Mw = 6.7 (長さ15km, 幅15km,  
 走向58° 傾斜60° レイク117° ,  
 すべり1.8m)

【受け手側断層】

走向58° 傾斜60° レイク117° ,  
 深さ10km

地震分布は防災科研Hi-net自動解による3月25日18:00までの余震.

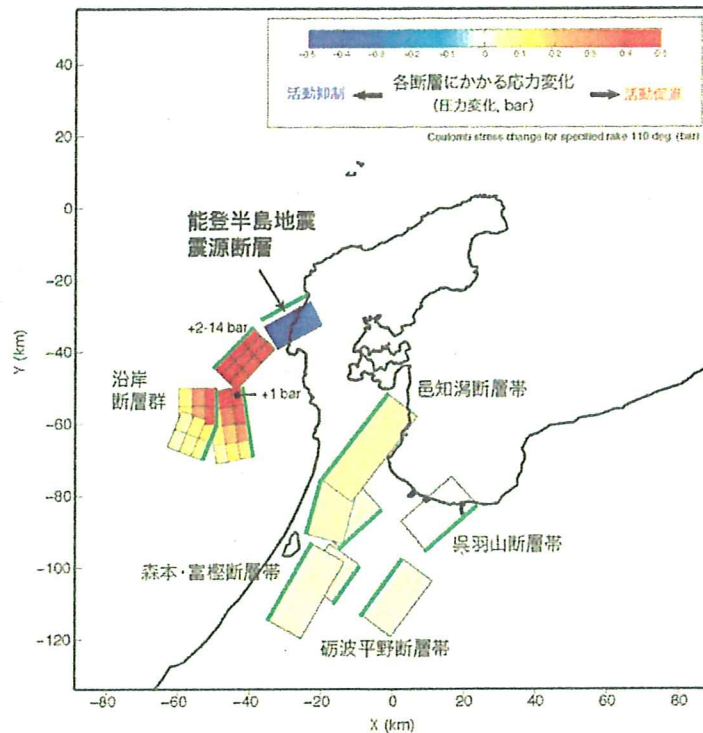


【主要活断層への応力変化】

以下の活断層が、今回の震源と同様のメカニズムを持つと仮定すると、

邑知潟の東側の断層(石動山断層): ごくわずかに減少  
 邑知潟の西側の断層(眉丈山断層): ごくわずかに増加  
 森本・富樫断層: ほぼ変化無し  
 呉羽山断層帯: ごくわずかに減少  
 砺波平野断層帯: ほぼ変化無し

能登半島の確実度の低い短い活断層群: 半島北部顕著に増加, 七尾湾周辺は顕著に減少



断層は地表から深さ 15km まで延びていると仮定し、その地表投影を示した。傾斜は震源断層とその西延長は 60°。その他は 55° とした。緑線は各断層の地表での位置を示す。